

# よちよち文庫

～赤ちゃんにすすめたい20冊～

姫路市立城内図書館

## はじめに

赤ちゃんの成長にとっておっぱいやミルクが必要なのと同様に、やさしい言葉で話しかけてあげることとはとても大切です。赤ちゃんの心の栄養となるのです。

ひざに抱っこしたり、向かい合ったり、並んで座ったりしながらやさしく絵本を読んであげるひときは、赤ちゃんにとってもあなたにとってもきっと心地よい時間となるでしょう。

あわただしい毎日ですが、あなたの赤ちゃんに絵本を読んであげませんか？姫路市立図書館では赤ちゃんに読んであげたい絵本を用意しています。どうぞご利用ください。あなたの子育てを応援し、赤ちゃんのすこやかな成長を願ってこの冊子をお届けします。



姫路市立城内図書館

## 赤ちゃんにすすめたい20冊

図書館のよちよち文庫コーナーに置いてあります

ころころころ

元永定正 作 福音館書店

さまざまな色の小さな玉が、ころころと転がっていきます。階段道や坂道を登ったり、落ちたり。

いろいろな動きをする玉が、鮮やかな色を背景に描かれています。

がたん ごとん  
がたん ごとん

安西水丸 作 福音館書店

走る汽車に乗せてもらうのは、ほ乳瓶、コップとスプーン、りんごとバナナなど。どれも赤ちゃんに身近なものばかりです。

「がたん ごとん がたん ごとん」のリズミカルな言葉の繰り返しが楽しい本です。

# いない いない ばあ

瀬川康男 絵      松谷みよ子 文  
童心社

「にゃあにゃが ほらほら いない いない …」と、ねこが顔を隠しています。ページをめくると、「ばあ」と目を大きく開いたねこの顔が現れます。続いて、くまに、ねずみに、こんこんぎつねも。

赤ちゃんが大好きな遊びを絵本で表現しています。

# どうすればいいのかな？

大友康夫 絵      渡辺茂男 文  
福音館書店

くまくんがお出かけのしたくをします。シャツをはいたり、パンツをかぶったりしてしまいますが、そのたびに「どうすればいいのかな？」と考えて、ひとつひとつ身に着けていきます。

くまくんの絵本はシリーズで他にもいろいろあります。

## ねこが いっぱい

グレース・スカル作 やぶきみちこ 訳  
福音館書店

大きいねこ、小さいねこ、しましまねこに、ぼちぼちねこ。いろいろなねこがのびやかに描かれています。5色だけですっきりとデザインされた楽しい絵本です。

同じ作者によるシリーズに『いぬがいっぱい』があります。

## いぬが いっぱい

グレース・スカル作 やぶきみちこ 訳  
福音館書店

おりこうないぬやいたずらいぬ。のんびりお昼寝したり、せっせとお仕事したり。

性格も見た目もさまざまないぬたちが、くっきりとした絵で、生き生きと描かれています。

## ととけっこう よが あけた

こばやしえみこ 案 ましませつこ 絵  
こぐま社

「ととけっこう よが あけた まめでっぼう  
おきてきな」と歌うわらべうたにのせて、朝、に  
わとりが動物たちを起こしてまわり、「おはよう」  
のあいさつをします。

子どもといっしょに歌って楽しめます。簡単な  
楽譜も載っています。

## スープに なりました

彦坂有紀 作 もりといずみ 作  
講談社

にんじん、じゃがいも、トマト、ほうれんそう  
といった身近な野菜が、ページをめくるとおいし  
そうなスープに変わります。「ごくっ」と飲んだ  
つもりになって、想像で味わってみてください。

あたたかみとリアリティのある美しい木版画  
による絵本です。

# きゅっ きゅっ きゅっ

林明子 作

福音館書店

赤ちゃんがぬいぐるみの動物たちとスープを飲みます。ねずみがこぼし、うさぎがこぼし、くまがこぼし、その度に赤ちゃんが「きゅっ、きゅっ、きゅっ」とふいてあげます。最後はお母さんが赤ちゃんのお口の周りをふいて「はい ごちそうさま」

# どうぶつのおかあさん

藪内正幸 絵

小森厚 文  
福音館書店

動物のおかあさんはどうやって自分の赤ちゃんを運ぶのでしょうか。くわえたり、おぶったり、鼻で押して歩かせたり。

それぞれの方法で子どもを運んだり連れて歩いたりする様子を写實的に描いています。

# どうぶつのこどもたち

藪内正幸 絵      小森厚 文  
福音館書店

やぎの子どもは頭と頭で押し合って、らいおんの子どもは取っ組み合いをして、いのししの子どもは水たまりの土をこねて遊びます。

動物の子どもたちが、走ったり飛んだり、様々な動きをして遊ぶ様子が描かれています。

# おさんぽ おさんぽ

ひろのたかこ 作      福音館書店

雨上がり、長靴をはいてお散歩にでかけます。地面や葉っぱの陰をよく見ると、だんごむしやアリやかたつむり、かえるもお散歩をしています。水たまりでは思い切りバシャバシャして楽しめます。小さな子どもの目線で描かれています。



## くだもの

平山和子 作      福音館書店

すいか、もも、ぶどう、なし、りんごなど身近な果物が本物そっくりに描かれています。丸ごとの果物が次のページで、皮をむかれ、カットされて「さあ どうぞ」と読み手に差し出され、思わず絵に手を伸ばしたくなります。

## サンドイッチ サンドイッチ

小西英子 作      福音館書店

ふわふわのパンにバターをたっぷり塗ったら、レタスをのせて、トマトにチーズに大きなハム！ ページをめくるたびに、色鮮やかな具材がパンの上に重なっていきます。最後は三角に切っておいしそうなサンドイッチの出来上がりです。

# いちご

平山和子 作      福音館書店

いちごの苗が、寒い冬を越し、花を咲かせ、実がだんだん大きくなり、赤く色づいていく様子を丹念に描いた絵本です。

子どもがいちごの苗に話しかける様子から、いちごを待ちわびる気持ちが伝わってきます。

# ずかん・じどうしゃ

山本忠敬 作      福音館書店

セダン、バン、バス、トラック、パトカーなど、様々な自動車が種類別に描かれた図鑑絵本です。

精密な絵は飽きさせず、乗り物好きの子どもたちのロングセラー絵本です。

# ちいさなうさこちゃん

ディック・ブルーナ文・絵 石井桃子 訳  
福音館書店

うさぎのふわふわさんとふわおくさんに赤ちゃんが生まれ、うさこちゃんと名付けられました。あちこちから動物がうさこちゃんを見にやってきます。

他にも『うさこちゃんとうみ』など、シリーズでたくさん絵本があります。

# おつきさま こんにちは

林明子 作 福音館書店

家の屋根の後ろから明るいお月さまが少しずつ顔を出し、夜空に浮かびます。すると大きな雲が現れてお月さまを隠してしまいます。

濃紺の夜空と黄色のお月さまの絵が印象的な美しい絵本です。

# たまごのあかちゃん

柳生弦一郎 絵      神沢利子 文  
福音館書店

「たまごのなかでかくれんぼしてるあかちゃんはだあれ？ でておいでよ」。ページをめくると、たまごの中からいろいろな動物の赤ちゃんが出てきます。

ユーモラスな絵とリズムカルな文が楽しい絵本です。

# きんぎょが にげた

五味太郎 作      福音館書店

「きんぎょがにげた。どこににげた。」金魚鉢から逃げ出した金魚が、カーテンの模様の中や花の中など、家の中をあちこち隠れながら逃げていきます。そして最後は外に飛び出して、仲間のいっぱいいる水槽にたどり着きます。

## 絵本の読み聞かせ Q & A

### Q 赤ちゃんに絵本なんて早すぎませんか？

A 大丈夫です。赤ちゃんは絵本を読んでもらっている間、じっとしていなかったり、どんどんページをめくろうとしたりするかもしれません。落ち着いて聞いてくれるようになるのは、2 歳ぐらいになってからです。ですから「ちゃんと聞いてくれないな」「内容を理解しているのかな」などと思う必要はありません。

なんといっても赤ちゃんにとって、お母さんやお父さんに抱かれてゆったりした声を聞くのは心地よいものなのです。そして本は楽しいものだと思えるようになればいいですね。ぜひ赤ちゃんに絵本を読んであげてください。

### Q どんな絵本を選べばいいの？

A かわいらしくカラフルな絵本につい目を奪われがちですが、一見地味なように見える絵本にも、子どもを惹きつけ、満足感を与えてくれる絵本がたくさんあります。

本の一番最後のページに[奥付]がありますので参考にしてください。出版年が古くても今でも発行されている本は、それだけ

長い間、子どもたちに愛されてきた本といえるでしょう。絵本も赤ちゃんにとってよいものを選んであげたいですね。どんな絵本を選べばよいかとか、おすすめ絵本については、図書館にご相談くださってもよいですし、15 ページ以降に載っている姫路市の各機関をどうぞご利用ください。

## Q どんな読み方をすればいいのでしょうか？

A 気負わず素直に、ゆっくりと読んであげましょう。あまり声色を変えたりしておおげさに読む必要はありません。絵本がよいものであれば、読み方はごく普通でよいのです。どんなに上手なプロの朗読の声よりも、親しい存在である親のほうが良い読み手に違いありません。赤ちゃんの様子に合わせながら、スキップを楽しむ気持ちで、リラックスして読んであげるとよいでしょう。そして、赤ちゃんと心を通わせながら一緒に絵本を楽しめたらいいですね。

Q 同じ絵本ばかり読んでほしがります。

A 同じ絵本を繰り返して読んでほしがるのはとてもよいことです。

読む方は大変ですが、できるかぎり読んであげてください。

赤ちゃんが、ある 1 冊の絵本に出会って、その中に何か惹かれるものを見い出したとしたら、何度でも飽きるまで読んでほしがるものです。そのお気に入りの絵本の楽しさを確かめたいのです。確かめることにより満足し、安心感を得られるのです。

また、繰り返して 1 冊の絵本を読んでいると、最初は気づかなかったところに気づいたり、新しい発見をしたりと、時間をかけただけ絵本の楽しみはふくらんでゆくようです。このことは本をじっくり読んで楽しむ土台となります。

もしもあまり 1 冊の絵本ばかりに夢中になるのが気になるときは、別の絵本を読んでもみるのもよいでしょうが、赤ちゃんが気に入っている絵本を隠してしまったり、無理強いしたりしないようにしましょう。